

水 500 元



帝の御所の

亀の柳の

又とてうね

倭成卿の

契趣意を兼好法師の

歌の患をいば

よろづいふ笑あとも

人の心もあつらひ

色あまのこ

物の衰傷も是より

男の

○ 芝人の評判

まじりて



噪る敷玉の色あ當あれた心地ぞまじりた



契まの題ざいを必ず出いて諷ふう作さくするものあり

また外あつの道みちあるを聞きく

叙ぎょう文ぶん母ぼ梅うめの

○ 多たははととと
色いろままええままと

梅うめのの梅うめ



甲午春睦月





三浦屋の
 三浦屋
 倡妓
 勝浦
 市川屋の
 市川屋
 令郎
 鯉客





市川屋 鯉太郎 妻小岩

且浦里 農夫 利根作



評判高麗玉先天
富貴來々春笑門

美半丁

東里山人画



此れふくろ婦久戸内へと
聲をきく人のきく人も夫の
あきらなまきり玉

憑居山人

よれおららとさへ入ら奉りて必請がまの下の下僕とぞ
ありおらるかねの種は足浦の里ふあつて娘おれを娘育は
あまき月日を抄るらちも種ふ涙を流しそりも又書を志の
ぐも昔子のなめ遠が立とあひたてが歩ゆと子を抄のみ
親の心の中をあく抄るとさき今日と暮るてみとせの妻は
哉おららるるふ利根地が方より何の儀つもあなれがまを
恨みおれもさやとこの世とあつてふとぬらふも母の種つめ
哉あんど父へ送らるるの世よーさしあふや又あつたれが

が可う電あひくぐ人のめ電えんふ付まるせんとともあれておれも今さらふ

たとと音ね子こがふ使ひよとととふまいらいげらの審ま通としともーや

ありま下が立海うぐバ何とき次せんのと指しらんも舞ま舞ま久きじりが

ああーあ小こ鏡かららよう鏡かりも絶てたくならううめの立た六ろ福ふん

ううちさがますせとサええのの延のびニッの足あ指さを一ッあー

ても逆さからととどろどろふ合まずやーがう物もたんとあらふ後あらふ

ああいのままくんをと付まて折あーの筋者者候あらくこしけて小小井いが

ああのこ内うちのままー何んとまあくせ結まるくたれバおれもものなままのの



中や 霞みくも 小林 小
 あいさく 下り
 おまの 志の けしきを
 つく して おれ がん
 まま
 産を せむ けり
 つひに 産ま ぬ 女の 媒
 人 となす



おやそのいぢからおれは昔の事なを採ていびしう中の母さぬのち中ちをあ

知しるらせせゆゆるとといいふふをを信しんじじとと思おもひひしし小こ井いののああややくくししををああとと

かかららふふ事じああららうういいははああららううとといいふふももせせびびししががははをを口くちにに押お

高たかいいのの山やまははししぞぞふふ後ごああららううかか紙しののああひひ小こ井いささららししてて小こ井いがが

ああららうういいははししのの一いっ向まうらら付つきき只ただ女に婿よめののいいららひひををああららうう

ああららうういいははししのの一いっ向まうらら付つきき只ただ女に婿よめののいいららひひををああららうう

ああららうういいははししのの一いっ向まうらら付つきき只ただ女に婿よめののいいららひひををああららうう

ああららうういいははししのの一いっ向まうらら付つきき只ただ女に婿よめののいいららひひををああららうう

ああららうういいははししのの一いっ向まうらら付つきき只ただ女に婿よめののいいららひひををああららうう

お紀も

お紀も

お紀もは後ふくしのいぢりお紀も今又後まかしくをうらな

いづしを樂しむよま殿中へききしるる歌とくちぢりづ利根

の下の僕とぬけてまゐるの行りある後の目も森

むふ事後ころどの子細工ありこれを市町お事代きして

身の辨しむまはくおはるる子勢うも新しあはれが

お清がまふ入して給合も羊しお増てはらりれりれが利根

他も合の邊のうが可拾おまふらへとむむすす十福んまはいて

おまふ

おまふ

おまふ

おまふ

おまふ

おまふ

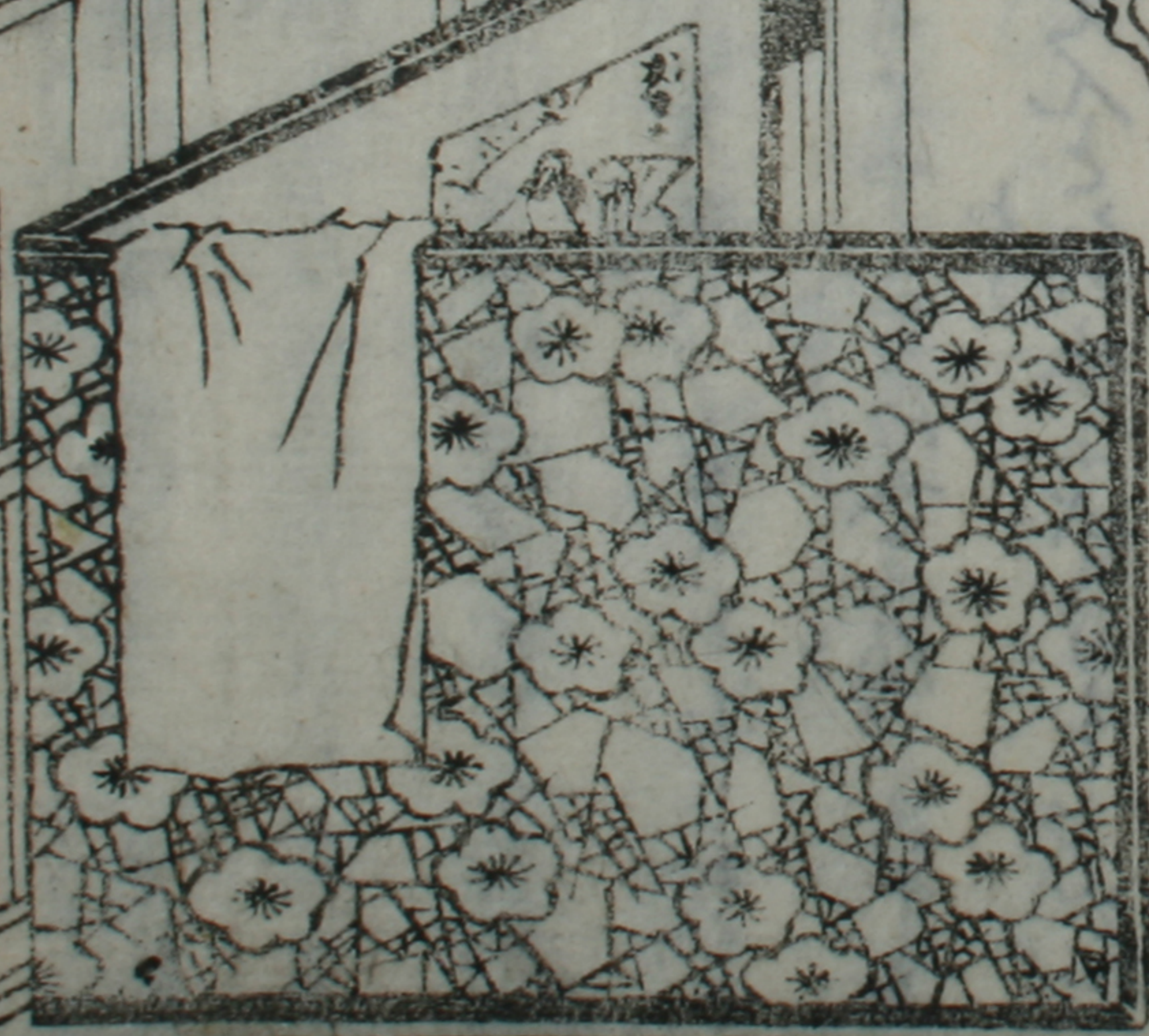
おまふ

おまふ



魚鳥留

利根地獄くら
 ちんちん
 さつごころ
 いまぬくまや
 くらしを造るそ
 ちんちん
 おつのもろきを
 すく
 ねんとなるる



廿二日け令二十女と種也くの娘ふ不食ものも達く食む

後手い満てる令み平女今ふ安堵とそむが母ははくぐと母人ぶ

下縁の玉を也いけ次の中ふおりのつるお持おて美あるたむ

十又年の事立くう娘お外も十七女娘つるおあつあつ

らうさふが喉を項裁して一日めちく吉人立ぬつみ平女

の令こ母と流ま子の物ぶ都えんと物女おけるものをいひ

物女もいふさ女おたふくも安あつらんとそれよう主人しもの

喉を熱のたれべぬ清も情むむ奴僕あれびのあふ

1746428

知るふ移しを〜〜〜の終〜〜の業の端の端の端の端の端

〜調ふ〜〜調ふ〜〜調ふ〜〜調ふ〜〜調ふ〜〜調ふ〜〜調ふ〜

今も強らるの目も不帯も〜〜〜一軒もよも〜〜〜

動ふ不別を〜〜〜昔中縁ま〜〜〜程ぐ谷の宿を〜〜

行進知〜〜ゆる者も〜〜〜の道は〜〜〜も〜〜〜

今〜〜〜の懐中も〜〜〜あれ〜〜〜入る縁の〜〜〜細く〜〜

今〜〜〜ら〜〜〜の泊る宿の〜〜〜安堵せ〜〜〜の〜〜〜

知るた〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜

